

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
29	川崎市立古市場小学校	五十嵐 聡

学校教育目標	今年度の学校教育の重点	今年度の重点目標
個性輝く豊かな人間性をはぐくみ、主体的に生きる創造力をもち、心身ともに健康な子どもを育てる ※創造力…既存の考えに知恵や工夫を施したり、組み合わせたりして実現できる力	学んだことを生かし、見通しをもって学び続けることができる子どもの育成	・他者理解と人権意識の育成 *キャリア在り方生き方 ・わかる授業の実践 ・自主自立の態度の育成(健康・安全の確保) ・地域とともにある学校 ↓

評価項目	具体的な取組(D)	成果と課題(C)	具体的な改善策(A)
1 児童理解の推進 ・児童理解と個に応じた手立ての充実	支援教育Coを核に据え、校内での児童一人一人の理解と個に応じた支援手立ての共有と関係機関との速やかな連携・対応を行う	不登校(傾向含)や子ども家庭センター対応案件が多数あったが、昨年度の反省を生かし、ケース会議の開催など関係諸機関との連携が迅速にできた。放課後に公園等で事案に対して、翌日以降の学校での聞き取りがなど対応に苦慮した。	R5年度も保護者や関係機関との連携を引き続き迅速・丁寧に行っていく。放課後トラブルについては、コミュニティスクールで話題にし、検討していく。
心を育てる教育活動 ・異学年交流の充実	たてわり活動を活発にし、異学年との活動を通して、思いやりの心を育てる	コロナが5類となり、たてわり活動が、活発に行われた。高学年がリーダーシップを発揮し、見通しをもって計画・準備を行った。卒業に向けた集会では互いに思いやる姿が見られた。	次年度は、6年だけでなく、各学年の役割・分担を位置づけるなど、主体的なかかわりを促していく。活動後の振り返りを確実にに行い、次の活動へつなげていく。
わかる授業の実践① ・見通しをもって学び続ける	「何を・どのように学び、何ができるようになったのか」を校内授業研や職員研修を通して、計画的な実践にあたる	R5年度は、拡大要請訪問を実施し、職員一人ひとりが授業改善への意識が高まった。児童に向けては、昨年度同様、学んでいることを次の学習に生かしていくよう繰り返し伝えた。始業式や終業式の代表児童の言葉でも、学びの継続が身についた姿が見られた。	R5年度から校内研究を国語科とし、国語での学びを他教科へ汎用していく。校内でのOJT研修を積極的・計画的に行い、わかる授業と形成的評価の充実に努める。
わかる授業の実践② ・効果的なGIGA端末の活用	GIGAスクール構想を念頭に置き、意図的・計画的に授業や家庭学習に取り入れていく	R5年度も授業での具体的なGIGA端末の活用方法について職員研修を行った。全学年で国語などで互いの思いを共有したり、体育で動画を撮影し、自分の動きを確認するなど効果的な活用が見られた。学級閉鎖時の課題配布に課題あり。	インフルエンザが流行し学年学級閉鎖時の対応や課業日の端末の持ち帰りに関しては、校内研修で活用方法を共有し、実践していく。
5 自主・自立の態度の育成① ・自分の身は自分で守る(安全教育)	地域の協力や学級活動を基盤とした安全教育の充実を図る	外部講師を依頼し、交通安全教室やスマートフォン(SNS)の活用講座を行い、安全・安心に過ごすための意識啓発が図られた。予告なしの避難訓練では、これまでの経験を行動で示すことができた。	避難訓練時や朝会等で「自分の身は自分で守る」意識を繰り返し伝えて周知していく。委員会活動を活用し、児童が自分事で受け止められるような仕組みを検討する。
6 自主・自立の態度の育成② ・体力維持・向上(健康教育)	全校で取り組んだ体力テストの分析と体力向上への取組	R5年度は市の抽出校となり、5月全学年で体力テストを実施した。瞬発力や遠投の結果が低調だった。運動委員会主催の縄跳び集会や鬼ごっこ集会などが計画的に行われ、楽しんで体を動かしていた。夏場の熱中症対策に向けた遊び方や運動の仕方を検討したい。	体力テストの分析をふまえて、R6年度から全学年対象となる「キラキラチャレンジ」の取り組みを体育主任を中心に検討し実施していく。R5年度後半にインフルエンザで学年学級閉鎖が相次いだ。感染症対策を再度検討したい。
7 地域との連携・協働 ・学校運営協議会(CS)への移行に伴い、保護者・地域と一体となった子どもの育成	児童と職員の自己評価と保護者による学校評価を学校運営に活かす	R5後半からCSに移行した。今年度の学校での困り感を共有し、家庭・地域で何ができそうか話題にした。教職員の働き方・仕事の進め方の面で登校時刻や電話対応時間など次年度へ向けて学校側から提案した。	CSの運営メンバーについては、施設開放で児童と直接かかわっている方にも参加協力を依頼し、学校と家庭と地域がチームとして古市場の子どもを育てていく意識を高めていきたい。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、学校教育推進会議を9月、学校運営協議会を2月に開催した。</li> <li>・9月では、6年生児童計画委員の発表について「GIGA端末を使いこなしている様子がよくわかった」「挨拶運動では保護者も協力したい」とお話をいただいた。</li> <li>・2月には、5年生児童計画委員がSDGsや市制100周年の取組を報告した。9月同様、GIGA端末を活用し、わかりやすく発表している様子により評価をいただいた。</li> <li>・学校評価アンケートの結果から、「学校の様子がわかりにくい」との声に対し、PTAの広報と連携し、配信機能を活用して、ホームページの閲覧を周知する方法を検討</li> </ul>	<p>コロナ対応が終息し、たてわり活動や運動会など、児童が進んで関わる場面が増えてきたことに喜びを感じている。一方、コロナ対応の影響なのか、児童のコミュニケーション力と相互理解の力が昨年度から大きく向上したといえない。友達に対してのからかいや暴言など、トラブル対応に今年度も苦慮した。CSを活用して課題を共有し、対応策をチームで検討していきたい。</p> <p>学習面では引き続き、国語科を中心にした校内研究をもとに学年や他教科の系統性と汎用性について研修し、全職員で「何を、どのように学び、何ができるようになったのか」について、共通理解を図りたい。</p> <p>R6年度も教員の不足・欠員が懸念されている。充実した学校運営のためにも人員の確保をお願いしたい。</p>